平成２８年　決算特別委員会　開催状況　　（企業局所管）

開催年月日　平成２８年１１月７日
質　問　者　日本共産党　真下　紀子　委員
答　弁　者　公営企業管理者、企業局長、企業局次長、発電課長、発電課参事
工業用水道課長、工業用水道課参事

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
二　工業用水道事業会計について （一）未稼動資産等整理について （真下委員） 次に工業用水道事業会計について伺います。工業用水道のうち、苫小牧工水、石狩工水については、過大な水需要予測によって過剰な設備を抱え、その結果、２０１４年度までの９年間にわたって、未稼動資産等整理経営健全化対策に取り組んできたと承知をしております。本来、各工業用水道事業は独立採算で運営されるべきであって、その立場から以下、伺いたいというふうに思います。 苫小牧工水、石狩工水の未稼動資産等整理のために繰り入れられた一般会計からの補助金額の２０１５年度分および、今年度までの総額がいくらになるのか、まず伺います。	（工業用水道課長） 一般会計からの補助金についてでございますが、平成２７年度に、国の「未稼動資産等整理経営健全化対策措置要領」に基づいて策定いたしました、経営健全化計画によりまして、一般会計から繰り入れました補助金額は、苫小牧工水では、約１７億６千１百万円、石狩工水では、約２億３千７百万円となっております。 また、未稼動資産等整理債の元利償還金に充てられます一般会計からの補助金を繰り入れ始めました１９年度から２８年度までの総額につきましては、苫小牧工水では、約１６０億４千５百万円、石狩工水では、約２５億６百万円となる見込みでございます。
巨額の金額になるわけですね。	
（二）未稼動資産等整理の今後の見通しについて （真下委員） それでは、未稼動資産等整理経営健全化対策が２０１４年度に終了したわけですけれども、一般会計からの補助金は継続すると承知をしております。何のために、いつまで続き、その累計額はいくらとなるのか。補助金依存から脱却できる見通しというのは持てるのかどうか、伺いたいと思います。	（工業用水道課長） 経営健全化についてでございますが、苫小牧及び石狩工水におきましては、国の健全化スキームに基づきまして、未稼動資産等の整理に伴い必要となります財源を確保いたしますため、未稼動資産等整理債を発行し、一般会計からの補助金によりまして、これを償還することとしております。 この補助金につきましては、当該起債の元利償還が終了いたします本年度で終了し、その累計額は約１８５億５千２百万円となる見込みでございます。 また、石狩工水におきましては、このほかに、地下水からの水源転換のための施設整備に係る企業債償還元金相当額につきまして、一般会計からの補助金を繰り入れることとしておりまして、平成１８年度から２７年度までに、既に約３３億３千９百万円を繰り入れ、今後については、２８年度から３９年度までに約２５億５千１百万円を繰り入れる予定でございまして、合計で、約５８億９千万円と見込んでおります。 これらによりまして、一般会計からの補助金の総額は、約２４４億４千２百万円となる見込みでございます。
一般会計からの補助金総額、約２４４億４千２百万円、本当に道民の税金を使ってですね整理をしている状況な訳ですね。	

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
（三）未処理欠損金について （真下委員） そこで、未処理欠損金の方について伺います。未処理欠損金の要因と内容、それから各工水の２０１５年度における未処理欠損金の額について、お示しください。	（工業用水道課長） 未処理欠損金についてでございますが、平成１８年度末時点におけます工業用水道事業の未処理欠損金は、約３５８億８千７百万円でございまして、その主な要因につきましては、１８年度に、苫小牧工水で、二風谷ダムの使用権等の未稼動資産を整理しましたこと、石狩工水で、計画給水能力を日量３万５千トンから１万２千トンに変更し、事業規模の適正化を図りましたことによるものでございます。 当該欠損金につきましては、１９年度から、一般会計からの補助金を繰り入れ、２３年度以降は、利益剰余金と合わせて補填したことによりまして、２７年度決算におけます未処理欠損金は、約１３５億９千９百万円と、この間に、約２２２億８千８百万円低減したところでございます。 また、工水別に見ますと、苫小牧工水が約１０８億２百万円、石狩工水が約３９億７千９百万円の未処理欠損金となっております。一方、室蘭工水に関しましては、約１１億８千２百万円の繰越利益剰余金を計上しております。
未処理欠損金が残っているのが、約１３５億９千９百万円、そして低減した分が、約２２２億８千８百万円という答弁なんですけれども、これは、結局はですね、２２年度までは一般会計からの補助金が繰り入れられてきたと、やっと２３年度以降利益剰余金が加わった訳ですけどもそれはわずかなもので、やっぱりこれもほとんどが道民の税金によるということになる訳ですね。	
（四）減資による未処理欠損金の低減について （真下委員） ２０１５年度からスタートした新しい経営健全化計画の中では、計画の最終年度である２０１９年度までに、苫小牧工水の未処理欠損金について、出資金と営業利益を原資とした組入資本金を減資して低減するということを検討するとしています。６４億円という額まで示していますが、結局、未処理欠損金を一般会計からの出資金で穴埋めするということに過ぎないのではないでしょうか。基本的に需要の拡大に図り純利益を増やしていく、そしてそれを充てることで減らすべきではないかと考える訳ですけどもいかがでしょうか。	（企業局次長） 減資による未処理欠損金の低減についてでございますが、地方公営企業の運営に関連し、平成２４年に地方公営企業法が改正され、未処理欠損金を解消する場合などについては、議会の議決を経た上で、「資本金の額の減少」、いわゆる「減資」の制度を活用することが可能となったところでございます。 このため、新しい経営健全化計画におきましては、一般会計からの補助金を繰り入れ、利益剰余金と合わせて欠損金の補填に充てるほか、本計画の最終年度に当たる３１年度までに、苫小牧工水での、減資制度の活用の可能性について、検討を進めることとしております。 企業局といたしましては、今後、経営健全化計画に基づき、経営改善にとって重要な、需要の拡大や支出の抑制に力を注ぎ、純利益及び未処理欠損金などの計画値を達成できるよう、努力してまいる考えでございます。
数字の目標は達成できるかもしれませんけれども、税金頼みの運営、過大な需要予測に基づいて税金頼みの運営を繰り返していることに変わりはないのではないのかというふうに考えるところです。	

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
（五）一般会計からの長期借入金の返済見通しについて （真下委員） 石狩工水においては、長期借入金によって施設の更新等を行い、また、苫小牧工水の長期借入金も「塩漬け」になっている訳ですけれども、長期借入金の返済を、どのように見通しているのでしょうか。	（工業用水道課長） 一般会計からの長期借入金についてでございますが、石狩工水におきましては、施設の劣化状況を適確に把握し、必要に応じて修繕などに取り組んでおりますが、厳しい経営状況にありますことから、その財源につきましては、基本的に一般会計からの長期借入金を充てております。 また、苫小牧工水におきましては、平成９年度から１２年度までに、資本的収支の不足額に充てるため借り入れました長期借入金の残高が約６億円ございます。 企業局といたしましては、引き続き、需要の拡大や支出抑制策の推進などにより経営改善に努め、一般会計からの借入の抑制と、各年度におけます純利益の計上が図られますよう、努めてまいる考えでございます。
今までもそのように考えて、行われてきたんだと思います。やや、その経営が改善されたかのようにご報告をされている訳なんですけれども、やはり根本的な問題は解決されていない訳ですね。 そこで、心配になるのが老朽施設の状況です。	
（六）老朽施設の状況について （真下委員） ３工水それぞれ、主要な工業用水道施設の老朽化の現状及び今後の更新計画についてはどのように見通されているのか、伺います。	（工業用水道課参事） 施設の状況などについてでございますが、各工水の給水開始からの経過年数は、室蘭工水が４９年、苫小牧工水が第一施設で４６年、第二施設で３７年、石狩工水が１７年となっております。 こうした中、工業用水の供給に重要な役割を果たします配水管につきましては、これまで、漏水などの発生状況を勘案し、改修を進めてきておりまして、法定耐用年数である３８年を経過した割合が、室蘭工水で約５６％、苫小牧工水で約２６％、石狩工水で約２％となっております。 企業局といたしましては、長寿命化に配慮しながら、今後、配水管の未改修部分につきましては、経過年数に応じて劣化状況の調査を行いまして、優先順位なども考慮しながら改修を進めることとし、配水管以外の主要施設に関しましては、耐震診断の実施などで劣化状況等を把握しながら、必要に応じまして、施設の修繕や更新を行ってまいる考えでございます。
長年にわたる工水事業ですよね、それでツケもたくさんあるということなんですけれども、やはりこれからはで、修繕、改修、更新、これをきちんとやって、収益を上げるためにどれだけ多くの需要を契約して実績として行くかということが、問われて行くのかというふうに思います。	

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
（七）工業用水道事業の経営について （真下委員） 企業局としてですね、今後一般会計からの繰入に頼らない経営に向かってですね、すぐに全てとはいかないとは思いますけれども、それを加速して最も課題といえる一般会計に頼った構造というのを幾らかでも解消できるようにしっかりと取り組んで行かなければならないというふうに考えますけれど、管理者の見解を伺います。	（公営企業管理者） 今後の事業運営についてでございますが、企業局では、室蘭地区、苫小牧地区、石狩湾新港地域の３つのエリアで、工業用水道事業を展開し、地域産業を支える重要なインフラとして、大きな役割を果たしております。 こうした中、経営状況が厳しい石狩及び苫小牧工水につきましては、国の健全化スキームなども活用し、経営改善に取り組んでまいりましたが、なお、多額の未処理欠損金を抱えており、今後とも、着実に財務の健全化を図っていかなければならないと認識しております。また、配水管などの施設の老朽化にも、適切に対処していかなければならないと考えているところでもあります。 このため、企業局におきましては、平成２７年度からスタートさせた新しい経営健全化計画に基づき、引き続き、需要の拡大や支出抑制策の推進に努め、一般会計からの借入の抑制と、各年度における純利益の計上が図られるよう最善を尽くすとともに、配水管の改修事業などにも計画的に取り組み、本道のさらなる産業振興に向けて、良質な工業用水を安定的に供給してまいる考えでございます。
工業用水の事業が、私は公益性はあるというふうに考えております。ですから全面否定するわけではないです。ただ、過去に負の遺産となるような過大な工事を行ってしまったということがあったんだという風に思いますけれどもね、やっぱり今の時代に即して経営の健全化に向かって頑張っていただきたいと申し上げて質問を終わります。	